

# 平成二年昭和天皇を偲ぶ歌会御製御歌及び詠進歌

晴

昭和天皇御製

空晴れてふりさけみれば那須岳はさやけくそびゆ高原のうへ

御製

父君を見舞ひて出づる晴れし日の宮居の道にもみぢばは照る

皇后陛下御歌

かすみつつ晴れたる瀬戸の島々をむすびて遠く橋かかりたり

皇太子殿下

朝もやの晴れ上がりゆく湖にヒマラヤの峰姿耀ふ

文仁親王殿下

冬来たる牛オックスフォード津の朝にしてきり深く動き晴間一筋

清子内親王殿下

晴れ渡る冷たき空に白樺のこずえはみゆるうすむらさきに

正仁親王殿下

風さむく晴れわたりたる空の下池のうすらひ朝日に光る

正仁親王妃華子殿下

チェンマイは雲ひとつなく晴れわたり王妃の薔薇バラの黄はにほひたつ

雍仁親王妃勢津子殿下

なが雨のやうやくはれて木も芝もみどりがやく庭の明るさ

宣仁親王妃喜久子殿下

せきれいのつがひ遊べり空はれて庭の紅葉もちりはてし朝

崇仁親王殿下

オリユンピアの祭かくやと偲ばれぬ秋晴のもと競ふ若人

崇仁親王妃百合子殿下

とざしゐし霧はれゆきてみはるかす尾根にま白く樹氷群れたつ

寛仁親王殿下

つかのまの晴れ間もとめて吾子<sup>あこ</sup>たちと新雪わけて滑りゆくかな

寛仁親王妃信子殿下

久にして晴れたる朝日樹々にうたふ小鳥のこともうたはまほしき

憲仁親王殿下

雲の中に穂高の尾根を登りゆけばたちまち晴れていただき見ゆる

憲仁親王妃久子殿下

空晴れてさしくる光あたたかし吾子のつくりし雪だるま溶く

召人 飯島宗一

木末もるる朝の日差しのやはらかき小庭を歩む今日晴れにけり

選者 渡辺弘一郎

晴のうた褻けのうたつぎて見るときに心はよりぬいつも褻けのうた

選者 千代國一

幾重なす雲を染めつつ晴れゆかむ白きひかりの胸先に差す

選者 田谷 鋭

霾ばいはれてあをくうるほふ空ありきすもも花咲く山西の村

選者 武川忠一

厚らかにおし移りゆく霧の晴間こごる雪原ゆきはら蒼く耀かがよう

選者 岡野弘彦

天晴あはれよしあなさやけしと天の戸をいでてあそびし神の世あはれ

選歌 (詠進者生年月日順)

群馬県 塚越志ま

沼ふたつ抱く赤城の晴れわたり黒檜の山に鳶の輪が見ゆ

ブラジル国  
サンパウロ市 重富義市

スコールの晴れ渡り行くアマゾナス原始の森は七色に映ゆ

三重県 村田和枝

去年見し羚羊かもしかならむ仔を連れて移りゆく山霧の晴れゆく

宮城県 鹿野 禮

かやつりぐさをさな稚くかやをつり初めて晴れ間の土にほそき影ひく

群馬県 河内梧作  
早苗植ゑる妻に声かけ隣田の麦刈り急ぐ梅雨の晴間に

長野県 古川みさを  
永年勤続表彰受けて晴れがましフライパン洗ひて十五年経つ

秋田県 金子重治  
晴天にポール蹴りあげダッシュするラガーの胸に光る春泥

茨城県 増田幸一  
幾年も記録続けし晴雨表人事異動の朝曇みぬ

石川県 敷田千枝子  
晴ればれと勝者は笑みて祖国への愛を語り白き歯見せて

福島県 今野金哉  
長梅雨に糖度上らぬ桃の実の出荷あきらめて晴るる日を待つ

佳 作 (詠進者生年月日順)

岩手県 千葉俊男

秋晴を栗の下草刈りて待つ東京の孫盛岡の孫

宮城県 小野寺篤

冬近き山に炭窯打つ槌の音こだまして空晴れ渡る

鳥取県 青戸茂雄

ひさびさに峡晴れゆけば新生の万のみつばち空に乱舞す

埼玉県 田中康雄

教へ子の庭師にはの木をうつすつゆの晴間をその妻と来て

山梨県 横山賀年子

晴れわたる孔子廟広場楽おこり少年一斉に弓挙げて舞ふ

茨城県 王子聰明

晴れ渡る摩文仁の丘に登り来て馴れて久しき平和思ひつ

埼玉県 田中敏子

冬晴れの秩父嶺展けくる路を訪問看護にペダル踏みゆく

埼玉県 馬橋喜久子

晴れし日を選び形見のセル干せば部屋は微かに母の匂ひす

福岡県 板垣 清

雪晴れのゆふべ烏賊割く浜納屋に火を戒めつつ吾子ら練り来る

東京都 川幡芳男

雪晴れの朝伐りたる青竹の匂ひすがしく大籠を編む

千葉県 斎藤 勉

代掻きて追ひし栗毛を梅雨晴の阿賀の緑野にいま解き放つ

愛知県 平松 憲

南<sup>みんなみ</sup>を目指すさしばの集ひ来て伊良湖岬の空晴れ渡る

福島県 遠藤雍子

晴れゆけば砂の乾くを待ちかねて子らは校庭へ飛び跳ねゆけり